

## 審議会等の会議結果報告

1. 会議名	令和7年度第3回松阪市文化センター運営委員会
2. 日時	令和8年2月25日(水) 午後7時00分から午後8時15分
3. 場所	農業屋コミュニティ文化センター
4. 出席者名	(委員) ◎森本小百合、馬場弘幸、牧田研介、塩谷明美 長百合子、富保孝之、縄手文人、木川真一 (◎委員長) 8名出席 (事務局) 松阪市民文化会館 北河館長、磯田 嬉野ふるさと会館 長谷川館長、佐々木 文化課 松葉参事、梶間課長補佐、早川係長 7名出席
5. 公開・非公開の別	公開
6. 傍聴者数	無し
担当	松阪市川井町690番地 松阪市民文化会館 担当者 館長 北河享 電話 0598-23-2111 FAX 0598-23-2114 e-mail bunka.kai@city.matsusaka.mie.jp

### 議題

1. 令和7年度自主事業予定・実績について
2. 令和8年度自主事業案について
3. その他

### 議事録

別紙

## 令和7年度第3回松阪市文化センター運営委員会議事録

日時 令和8年2月25日(水) 19:00~20:15

場所 農業屋コミュニティ文化センター

出席者 【委員】◎森本小百合、馬場弘幸、牧田研介、塩谷明美、長百合子、富保孝之、  
縄手文人、木川真一 8名出席

(◎委員長)

【事務局】松阪市民文化会館 北河館長、磯田

嬉野ふるさと会館 長谷川館長、佐々木

文化課 松葉参事、梶間課長補佐、早川係長 8名出席

### ◎議題

#### 1. 令和7年度自主事業予定・実績について

令和7年度自主事業予定・実績について説明。クラギ文化ホールの実績13事業。農業屋コミュニティ文化センター実績2事業、予定1事業、嬉野ふるさと会館実績3事業、予定1事業を説明。

また、文化芸術団体共催事業として、農業屋コミュニティ文化センターで実施した実績3事業を説明。

事業の概要、入場者数の実績等について報告した。

### 主な議論・意見内容

- ・ワンコインコンサートについて、見込み数350人に対して、1280人の収容人数のクラギ文化ホールで行うのはなぜか。音響等の設備の違いか。  
→(事務局)音響的な違いというより、開催時期、演者等の要因で500人を超えてくる可能性があるため、クラギ文化ホールでの開催を行っているものであります。来客数については、より多くの市民の方に見てもらえるよう広報周知を行っていきます。
- ・ルドルフとイッパイアッテナのオペラについて、3歳未満無料とあるので、連れていきたいがずっと見られるかが心配だった。問い合わせたら、親子席があるとのことなので安心したが、そういう情報があると良いと思った。そういう懸念点でやめておこうとなる人がいるかもしれない。前回駐車場のことについて、お伝えさせてもらったが、色々工夫してもらっていた。ありがたく思っています。  
→(事務局)家族席のことについてはチラシのスペース的な問題があり、情報を掲載できなかったという事情はございますが、前向きに検討します。
- ・舞台裏見学会はいつも人気があるが、40人と決めているのはなぜか。最大でどれだけできるのか。  
→(事務局)舞台裏見学会の上限人数は40人と設定していますが、今回については60人の応募がありました。上限の設定については、最大でも60人ほどと考えています。理由としては、60人を3班に分けて、ピンスポット設備などの見学を行う際に、一班20

人以上だと、一人当たりの体験できる時間が短くなり、待ち時間も長くなってしま  
うことから、これ以上募集人数を増やす判断は要検討とさせていただきたい。

## 2. 令和8年度自主事業予定について

今回の方針では、子供たちが文化に触れる機会を提供できる事業を中心に行っていきたい。また、クラギ文化ホールではより多くの人に訪れてもらえるような著名なアーティストの誘致を進めていきたい。その事業の一つとして、松平健さんの「マツケンサンバコンサート」とNHKの「おかあさんといっしょ」を検討している。ワンコインコンサートについては3組のアーティストの誘致を検討している。そのうちの一人は松阪市出身であることから、ぜひ誘致したいと考えている。他事業も以前から好評いただいている事業であるため、引き続き実施していきたいと考えている。嬉野寄席については、自主事業の中で選定した結果、令和8年度は実施しない方向で検討している。

### 主な議論・意見内容

- ・嬉野寄席を実施しない要因としては何があったのか。
- （事務局） 予算の都合上です。増え続けるものではないため、何かを削らないといけないという中で、嬉野寄席は令和8年度には実施しないという方向になりました。
- （委員） 松阪では子どもたちの文化を育てていこうということで子ども向けのイベントに力をかけてきた。ただし、子どものことばかりのことになってしまったら、公共であるため、バランスが悪くなる。オールラウンドで幅広くしていく必要がある中で嬉野寄席は高齢者の方を対象にしているものだと思う。子ども向けの事業、幅広い年齢層のための事業の中で高齢者向けの事業があっても良いと思うので、予算の都合はあると思うが、高齢者の方にも目をむけてもらえると嬉しい。
- （委員） 嬉野寄席は今後ずっとなくなってしまうのか。
- （事務局） 令和8年度が無くなる方針であるだけで、今後ずっとなくすものではありません。
  
- ・マツケンサンバコンサートが880万円、おかあさんといっしょが550万円とあるが、これのせいで嬉野寄席がなくなったということか。
- （事務局） →歳出予算は大きく増えたが、チケット収入があるので、歳入も増えています。歳出と歳入がプラスマイナス0になるようにチケット料金設定を行っていますので、マツケンサンバコンサートやおかあさんといっしょの歳出が高額であるために嬉野寄席が無くなるというものではありません。
- （委員） →マツケンサンバコンサートの損益分岐は、何人入れば達成するものか。
- （事務局） →マツケンサンバコンサートは2回公演ですので、合計1700人程度の来客が損益分岐点になります。

## 4. その他

- ・令和8年度第1回運営委員会の開催日を令和8年6月10日（水）に決定する。